

松本市乗鞍観光センター再整備基本構想・基本計画（案）に対する
パブリックコメントの結果について

1 募集期間

令和5年3月14日（火）から4月13日（木）までの30日間

2 募集方法

- (1) 市ホームページ
- (2) 窓口（アルプスリゾート整備本部、行政情報コーナー、各地区地域づくりセンター）

3 実施結果

- (1) 件数
27件（5人）
- (2) 提出方法
電子メール 27件（5人）
※ 電子メールには、ながの電子申請サービスによるものを含みます。
- (3) 意見等に対する対応

区分	内容	件数
ア 反映する意見	意見等の内容を反映し、案を修正したもの	6件
イ 趣旨同一の意見	意見等の同趣旨の内容が既に案に盛り込まれているもの	1件
ウ 参考とする意見	今後の参考とするもの	12件
エ その他	その他の意見	8件
計		27件

4 意見等の概要及び市の考え方

(1) 乗鞍観光センター再整備に関する意見

No.	項目	意見等の概要	市の考え方
1	施設の表記について	「バリアフリー」表記が散見されるが「ユニバーサルデザイン」表記で統一すべき。	【ア 反映する意見】 ご指摘のとおり、「ユニバーサルデザイン」表記で統一します。
2	サイクリングについて	サイクリスト、登山客向けの補給食・補修パーツ自販機を設置するのはどうか。	【ウ 参考とする意見】 今後、基本設計や実施設計を進める中で、完成後の運営方法も含めて、総合的に検討していきます。
3		サイクリスト向けに簡易メンテナンスブース(無人)を設置するのはどうか。	
4		乗鞍ベース、NCMTへの導入としてモジュラーパンプトラックを設置するのはどうか。	
5	夜間の照明について	環境省の光害対策ガイドラインに示された内容に沿い、自然環境と観光拠点を両立する模範となるべき開発を成し遂げてほしい。	【ア 反映する意見】 ガイドラインに基づき、基本設計や実施設計を進める中で、配慮します。
6		上方光束比 0.0%、青色光の少ない相関色温度 3000K が実現できる照明器具を用いてほしい。	
7		敷地内通路の誘導灯は、夜間には視野を幻惑しないような明るさや配光に配慮した光源としてほしい。	
8		建物屋外には上向き照明は用いないことを実現してほしい。	
9		自動販売機が設置される場合は、夜間には照明が消えるようにするか、漏れ光が無いように十分な遮光を設けてほしい。	
10		建物の屋内の照明は、夜間には外部に光が漏れないようにすること。	【ウ 参考とする意見】 建物の用途上、建物の屋内照明の光が外部に漏れないようにすることは困難ですが、今後、基本設計や実施設計を進める中で、抑制する方策を検討します。

11	星空観測について	乗鞍高原の魅力は、きれいな星空が見られる場所である。星空をテーマにして星空をアピールできる星空デッキをつくれないうか(人が集まる場所や設備を用意できないか)。	【ウ 参考とする意見】 今後、基本設計や実施設計を進める中で、適切な方法を検討します。
12	施設の耐用年数について	個々の施設の耐用年数をご教示ください。	【エ その他】 本建物(木造、用途は店舗・事務所)の法定耐用年数は22年から24年ですが、実際の耐用年数は、気候等の周辺環境によるため、正確な予測は困難です。 できるだけ長寿命化するための方法を基本設計・実施設計の中で検討します。
13	施設のLCA(ライフサイクルアセスメント)について	計画を実行する際には、個々の施設にLCA(ライフサイクルアセスメント) ^{※1} の考え方を導入してほしい。	【ウ 参考とする意見】 環境負荷の観点から、施設建設における原材料の生産、輸送、素材製造、組立、運用、解体、廃棄までの建物のライフサイクルを配慮することは重要と考えます。今後、基本設計や実施設計を進める中で、適切な方法を検討します。
14	展示室(案内ゾーン)について	自然保護センターの展示物を展示するには、新観光センターの展示室面積では、狭小である。	【ウ 参考とする意見】 自然保護センターの展示物の内容の精査と併せ、検討します。
15	団体利用者への説明スペースについて	スノーシューなど団体利用者への説明場所が必要であるが、天候を考慮すると野外では無理だ。設計図のスペースでは他の観光客などと競合し、大変混雑が予想されるが、場所は確保できているのか。	【イ 趣旨同一の意見】 団体利用に対応するスペースとして、共用ゾーン・交流ゾーン(合計約500㎡強)を想定しています。

※1 LCA(ライフサイクルアセスメント)

製品の資源採取から原材料の調達、製造、加工、組立、流通、製品使用、更には廃棄にいたるまでの全過程(ライフサイクル)における環境負荷を総合して、科学的、定量的、客観的に評価する手法

(2) その他の意見

No.	項目	意見等の概要	市の考え方
1	乗鞍地域のダークスカイプレイス・プログラムの認定について	乗鞍地域がダークスカイプレイス・プログラム(星空保護区認定制度)※2に認定されることにつながる活動も取り入れてほしい。	【エ その他】 乗鞍地域がダークスカイプレイス・プログラムに認定されるためには、観光センターの整備事業だけでなく、地元観光業界や地域住民の理解と協力が不可欠であるため、今後の検討課題とします。
2	ライトダウン等の取組みについて	星空が見られるように午後9時頃からのライトダウン(近隣施設の協力依頼等)の取組みなどはできないか。	【ウ 参考とする意見】 ライトダウンに関する協力については、地元施設との協議になるため、今後の検討課題とします。
3	イベント連携について	星空マップ(安全に天体観測できる場所)をつくり配布可能にし、コロナ観測所とのイベント連携などができないか。	【ウ 参考とする意見】 施設全体の運用面における意見として、参考とします。
4	展示室(案内ゾーン)の説明員の配置について	展示室(案内ゾーン)には観光や登山に関する説明員が必要である。現在の県の自然保護センターはその役割を果たしていない。安全な登山、自然への啓蒙及び国立公園利用の自然保護に関する注意事項等の徹底を図る意味で定時の職員配置が必要ではないか。	
5	乗鞍観光センター以外の施設について	稼働率の低いマレットゴルフコース(いがやレクリエーションランド)の縮小・廃止を検討すべき。	【エ その他】 地元の意見等を聞き取るなど、今後の施設の在り方を検討します。
6		路線バス、シャトルバスへ外付けサイクルラックを取り付けるのはどうか。	【ウ 参考とする意見】 乗鞍地域全体の活性化につながる意見として受け止め、バスの運行会社等と調整します。
7	温室効果ガスの排出量の削減とゼロカーボンについて	本整備計画の実行により、環境省や長野県が推進するゼロカーボン政策(2050年度までに実質ゼロにする。)にどれだけ寄与するものなのか、計画実行後のGHG※3排出量の削減量など客観的な予測数値を用いて国民に示してほしい。また、計画実行後にGHG排出量の削減や	【ウ 参考とする意見】 現段階では、詳細設計をしていないため、GHG排出量の削減量を示すことは困難です。なお、本市の公共施設については、GHG排出量のモニタリングをしているため、乗鞍観光センターの完成後には、検証し、

		ゼロカーボンへの到達度が予測 数値どおりに推移しているかモ ニタリングと検証し、経過を国 民に告知してゆく必要がある。	必要に応じて公表していく ことを検討します。
8	中部山岳国立公園 全体の安全対策に ついて	乗鞍岳が安定期とはいえ、噴 火が起きる可能性を考慮する必 要がある。万全の危機管理対策 や体制はできているのか。	【エ その他】 危機管理の部署等と連携 しながら、万全の危機管理 対策を講じるよう努めてい ます。
9	小水力発電所建設 について	今回の計画で一番の目玉は脱 炭素地域としての小水力発電所 であり、最も経費のかかる事業 である。予算執行に関し厳重な 管理体制はできているのであろ うか。汚職など法に抵触する行 為が起こらないよう厳重な支出 管理に対して、細部にわたる出 金の監視が必要だと考えるがい かがであろうか。形式的な会計 監査では困る。	【エ その他】 小水力発電施設の整備 は、地元住民や観光事業者 等で構成する協議会のプロ ジェクトチームを中心に、 地域全体で建設計画の検討 を進めています。 ご指摘の意見を踏まえな がら、乗鞍高原の地域特性 に即した適正な整備内容と なるよう計画を支援し、脱 炭素先行地域の具体化を 図っていきます。
10		発電所建設の結果による自然 への影響は注視しなくてはなら ない。すでに調査は済んでいる が、環境アセスメントなどの データの公表はいつどのように されるのであろうか。市の管轄 ではないとの話で、市民には発 電所の計画プランなど全く示さ れていない。いいかげんな環境 調査では発電所を認めるわけに は行かない。市は協議会への働 きかけや資料提出公開等の責任 を負うべきではないか。建設へ の責任はどこが負うのであろ うか。一般市民には不明瞭な事業 と言わざるを得ない。	
11	少子化対策と人口 減少対策について	奈川、乗鞍、沢渡地区にも人口 減少、少子化の波が押し寄せて いる。観光客を呼び寄せても、応 対する地域住民が少なくなっ ては観光地として成り立たない。 まず、地元の基礎的基盤を強固 なものにすべく、長期にわたる 対策を立てなくてはならない。	【エ その他】 少子化対策と人口減少対 策については、全庁を挙げ て取り組んでいきます。
12		少子化を回避するには、医療 体制の確立が急務だ。治療、出 産、薬などが早急に手配できる 体制があってこそ過疎化は回避	

		できる。市立病院に産科問題が上がっているが、地域としても産科存続の要望を出しているのだろうか。診療所は機能しているのか。ドローンによる薬の配送実験はしたのか。遠隔診療の実証実験は済んでいるのか。市政としても、少子化、人口減少への市内各地での対策は検討に入っているのだろうか。それなくして、乗鞍の未来は安易に語れないのである。	
--	--	---	--

※2 ダークスカイプレイス・プログラム（星空保護区認定制度）

国際ダークスカイ協会が2001年に始めた制度で、光害の影響のない、暗く美しい夜空を保護・保存するための優れた取組みを称える制度

※3 GHG（グリーンハウスガス）

温室効果ガスのことで、大気圏にあって地表面から放射された赤外線の一部を吸収することにより温室効果をもたらす気体（二酸化炭素、一酸化窒素、代替フロン等）の総称のこと。